

尼崎市新ごみ処理施設整備事業に係る 環境影響評価準備書の概要

令和4年9月
尼崎市

説明の流れ

環境影響評価準備書の概要について

- 1 環境影響評価の項目
- 2 現地調査
- 3 影響の予測・評価

(大気質、騒音・振動、悪臭、地下水質、土壌汚染)

1.環境影響評価の項目

環境影響評価項目の選定結果

準備書p.6-2~5

	現況調査	予測・評価					
		工事中			存在	供用	
		資材等運搬 車両の走行	建設機械の 稼働	施設の 解体・建築	施設の存在	施設の稼働	施設車両 の走行
大気質	二酸化窒素	●	●			●	●
	二酸化硫黄	●				●	
	浮遊粒子状物質	●	●			●	●
	有害物質	●				●	
騒音	●	●			●	●	
振動	●	●			●	●	
悪臭	●				●		
水質	水の汚れ(BOD)	●				▲	
	水の濁り(SS)	●			▲	▲	
	富栄養化(T-P、T-N)	●				▲	
	溶存酸素(DO)	●				▲	
	有害物質	●		▲		▲	
	水素イオン濃度	●				▲	
地下水質				▲			
土壤汚染				▲			
廃棄物				●		●	
資源循環				●		●■	
地球温暖化						●■	
景観	●				●		

- ：環境負荷要因として項目選定した評価項目、▲：環境負荷要因として項目選定した保全措置項目
- ：環境創造要因として項目選定した評価項目

・環境負荷要因：環境負荷影響を及ぼす要因となるもの
 ・環境創造要因：良好な環境を創造する要因となるもの
 ※赤字は、実施計画書の段階から修正した項目を示す。

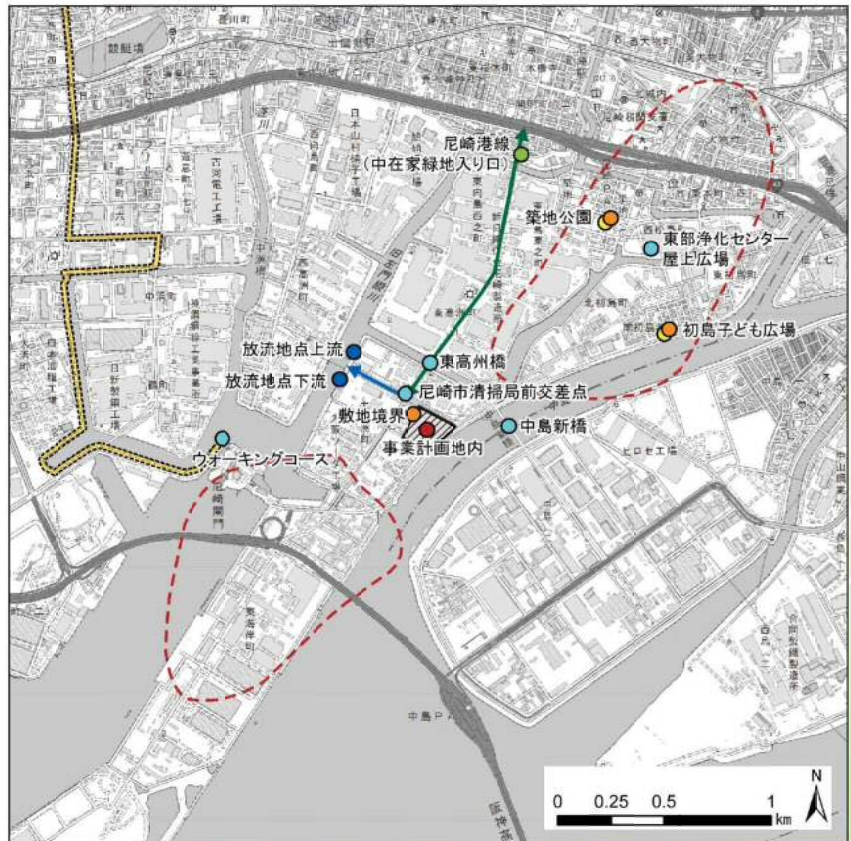
2.現地調査

4

現地調査地域・調査地点

準備書p.6-9

区分	凡例	項目
区域内	●	地上気象
一般環境	●	大気質
	●	騒音
		振動
		悪臭
沿道環境	●	大気質
		騒音
		振動
その他	●	景観
	●	水質
	□	最大着地濃度の約1/2の範囲



5

現地調査の実施時期

現地調査の実施時期

項目	年 月	令和2年度			令和3年度								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
大気質			●			●			●		●		
気象		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
騒音											●	●	
振動											●	●	
悪臭			●							●			
水質						●			●		●		●
景観			●			●			●			●	

6

現地調査の結果(大気質:一般環境)

準備書p.7.1-5~10

測定地点	二酸化窒素			二酸化硫黄		
	期間 平均値 (ppm)	日平均値の 最高値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	期間 平均値 (ppm)	日平均値の 最高値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)
初島子ども広場	0.015	0.032	0.048	0.001	0.002	0.002
築地公園	0.016	0.035	0.050	0.001	0.003	0.003
環境基準等	—	0.04~0.06以下	—	—	0.04	0.1

測定地点	浮遊粒子状物質			塩化水素	ダイオキシン類	水銀
	期間 平均値 (mg/m ³)	日平均値 の最高値 (mg/m ³)	1時間値 の最高値 (mg/m ³)	期間 平均値 (ppm)	期間 平均値 (pg-TEQ/m ³)	期間 平均値 (μg/m ³)
初島子ども広場	0.017	0.031	0.077	<0.001	0.017	<0.004
築地公園	0.022	0.031	0.068	<0.001	0.015	<0.004
環境基準等	—	0.10	0.20	0.02	0.6	0.04

7

現地調査の結果(大気質:沿道環境)

準備書p.7.1-13,14

測定地点	二酸化窒素			一酸化窒素		
	期間 平均値 (ppm)	日平均値 の最高値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	期間 平均値 (ppm)	日平均値 の最高値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)
県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	0.019	0.027	0.043	0.011	0.018	0.045
環境基準	—	0.04~ 0.06以下	—	—	—	—

測定地点	窒素酸化物			浮遊粒子状物質		
	期間 平均値 (ppm)	日平均値 の最高値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	期間 平均値 (mg/m ³)	日平均値 の最高値 (mg/m ³)	1時間値の 最高値 (mg/m ³)
県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	0.030	0.042	0.076	0.018	0.032	0.058
環境基準	—	—	—	—	0.1	0.2

8

現地調査の結果(騒音・振動:一般環境)

準備書p.7.2-4,7.3-4

測定地点	時間 区分	騒音(dB)			振動(dB)		
		騒音レベル (L _{Aeq})		環境 基準	振動レベル (L ₁₀)		規制 基準
		平日	休日		平日	休日	
事業計画地 敷地境界	昼間	69	60	—	46	36	—
	夜間	62	59	—	41	34	—
初島子ども広場	昼間	44	36	65	34	26	65
	夜間	40	35	60	26	22	60
築地公園	昼間	49	43	65	34	32	65
	夜間	44	36	60	22	30	60

※時間区分は、昼間：6時から22時、夜間：22時から翌6時。

※事業計画敷地境界には騒音規制法及び振動規制法等の規制区域ではなく、基準値は適用されない。

9

現地調査の結果(騒音・振動・交通量:沿道環境) 準備書p.7.2-7~8,7.3-7

測定地点	時間区分	騒音(dB)			振動(dB)		
		騒音レベル(L _{Aeq})		環境基準	振動レベル(L ₁₀)		要請限度
		平日	休日		平日	休日	
県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	昼間	69	67	70	45	43	70
	夜間	64	64	65	41	39	65

※時間区分は、昼間：6時から22時、夜間：22時から翌6時。

測定地点	測定区分	時間区分	交通量(台/日)			
			大型車類	施設 関連車両	小型車類	合計
県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	平日	昼間	3,881	262	6,172	10,315
		夜間	650	8	589	1,247
	休日	昼間	2,268	159	4,715	7,142
		夜間	598	5	637	1,240

※時間区分は、昼間：6時から22時、夜間：22時から翌6時。

10

現地調査の結果(悪臭) 準備書p.7.4-5,6

測定項目	単位	地点						規制基準
		敷地境界		初島こども広場		築地公園		
		冬季	夏季	冬季	夏季	冬季	夏季	
アンモニア	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	1
メチルメルカプタン	ppm	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
硫化水素	ppm	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
硫化メチル	ppm	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01
二硫化メチル	ppm	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	0.009
トリメチルアミン	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.005
アセトアルデヒド	ppm	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05
プロピオンアルデヒド	ppm	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	0.009
イソブチルアルデヒド	ppm	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
ノルマルパレルアルデヒド	ppm	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	0.009
イソパレルアルデヒド	ppm	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003
イソブタノール	ppm	<0.09	<0.09	<0.09	<0.09	<0.09	<0.09	0.9
酢酸エチル	ppm	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	3
メチルイソブチルケトン	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1
トルエン	ppm	<1	<1	<1	<1	<1	<1	10
スチレン	ppm	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.4
キシレン	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1
プロピオン酸	ppm	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.03
ノルマル酪酸	ppm	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.001
ノルマル吉草酸	ppm	<0.00009	<0.00009	<0.00009	<0.00009	<0.00009	<0.00009	0.0009
イソ吉草酸	ppm	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.001
臭気指数	—	<10	<10	<10	<10	<10	<10	—

※<：定量下限値未満であることを示す。

※規制基準値は「悪臭防止法の規定に基づく規制地域の指定及び規制基準について」（平成13年、尼崎市告示第103号）による。

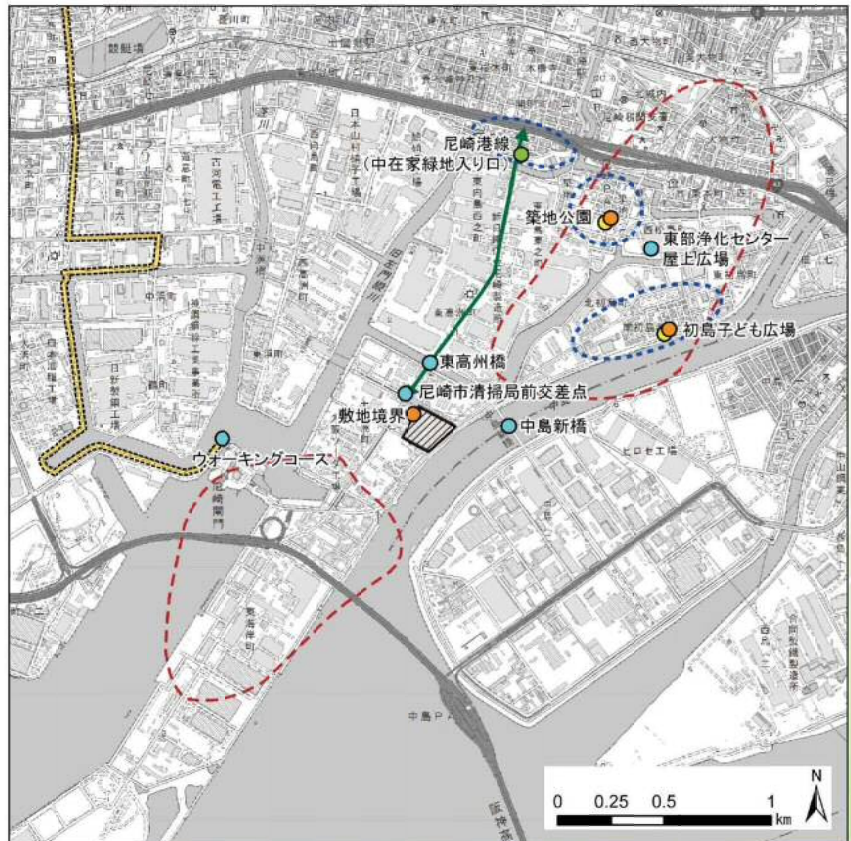
11

3.影響の予測・評価

予測地域・予測地点

準備書p.6-9

区分	凡例	項目
一般環境	●	大気質
	●	悪臭
沿道環境	●	大気質
		騒音
		振動
その他	●	景観
	□	最大着地濃度の約1/2の範囲
	□	住宅が存在



予測の概要

工事用車両の走行及び施設供用時の施設関連車両（パッカー車等）の走行による、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の年平均値を予測。

主な予測条件： 気象条件（風向・風速）・道路条件・交通条件（時間別交通量、車種構成比、平均走行速度）・事業計画・工事計画

【予測に使用した車両台数】

区分	一日台数	
	大型車	小型車
工事用車両	218	138
施設関連車両	738	148

予測対象時期

工事用車両：年間累計排出量が最大となる一年間

施設関連車両：施設関連車両の走行による環境影響が最大となる時期



14

予測結果 (工事中)

[二酸化窒素]

[単位：ppm]

時期	地点名	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間98%値	環境保全 目標値
工事中	県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	0.018	0.031	0.04~0.06の ゾーン内または それ以下

[浮遊粒子状物質]

[単位：mg/m³]

時期	地点名	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間2%除外値	環境保全 目標値
工事中	県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	0.022	0.053	0.10以下

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

15

予測結果 (供用時)

[二酸化窒素]

[単位: ppm]

時期	地点名	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間98%値	環境保全 目標値
供用時	県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	0.017	0.031	0.04~0.06の ゾーン内または それ以下

[浮遊粒子状物質]

[単位: mg/m³]

時期	地点名	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間2%除外値	環境保全 目標値
供用時	県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	0.022	0.053	0.10以下

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

大気質 環境保全措置(工用車両)

環境保全措置(工用車両)

工用車両の走行に伴う大気質の影響(工用車両)を回避・低減するために環境保全措置の検討を行った。

運搬車両台数の低減

掘削に伴い発生する土砂は、可能な限り事業計画地内で再利用し、周辺道路を走行する工用車両の台数を低減する。

車両の維持管理

工用車両は点検・整備に努めて良好な状態で使用し、車両から発生する排出ガス等を適正に保つ。

運転手の教育・指導

工用車両の走行に当たっては、積載量及び走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行及び空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を実施する。

自動車NOx・PM法の排出基準適合車を使用

自動車NOx・PM法の排出基準適合車を使用し、車両から発生する大気汚染物質の削減に努める。

環境保全措置(施設関連車両)

施設関連車両の走行に伴う大気質の影響(供用)を回避・低減するために環境保全措置の検討を行った。

車両の維持管理

施設関連車両は点検・整備に努めて良好な状態で使用し、車両から発生する排出ガス等を適正に保つ。

運転手の教育・指導

施設関連車両の走行に当たっては、積載量及び走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行及び空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を実施する。

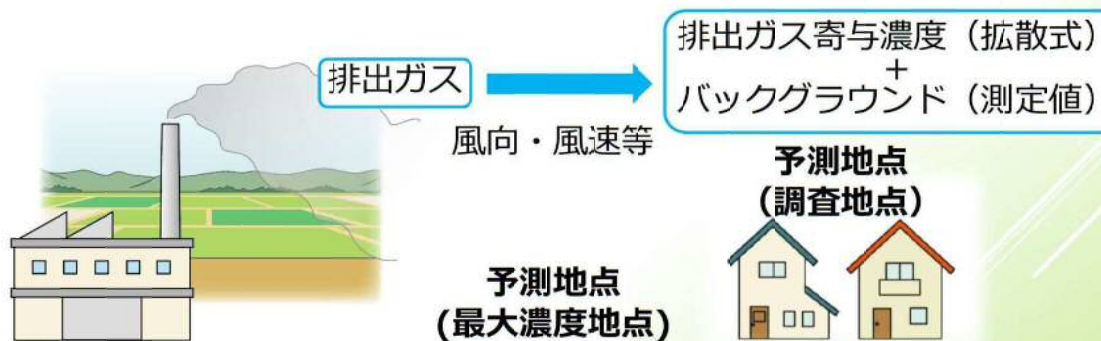
予測の概要

施設供用時の煙突排出ガスによる大気質の年平均值及び1時間値を予測。

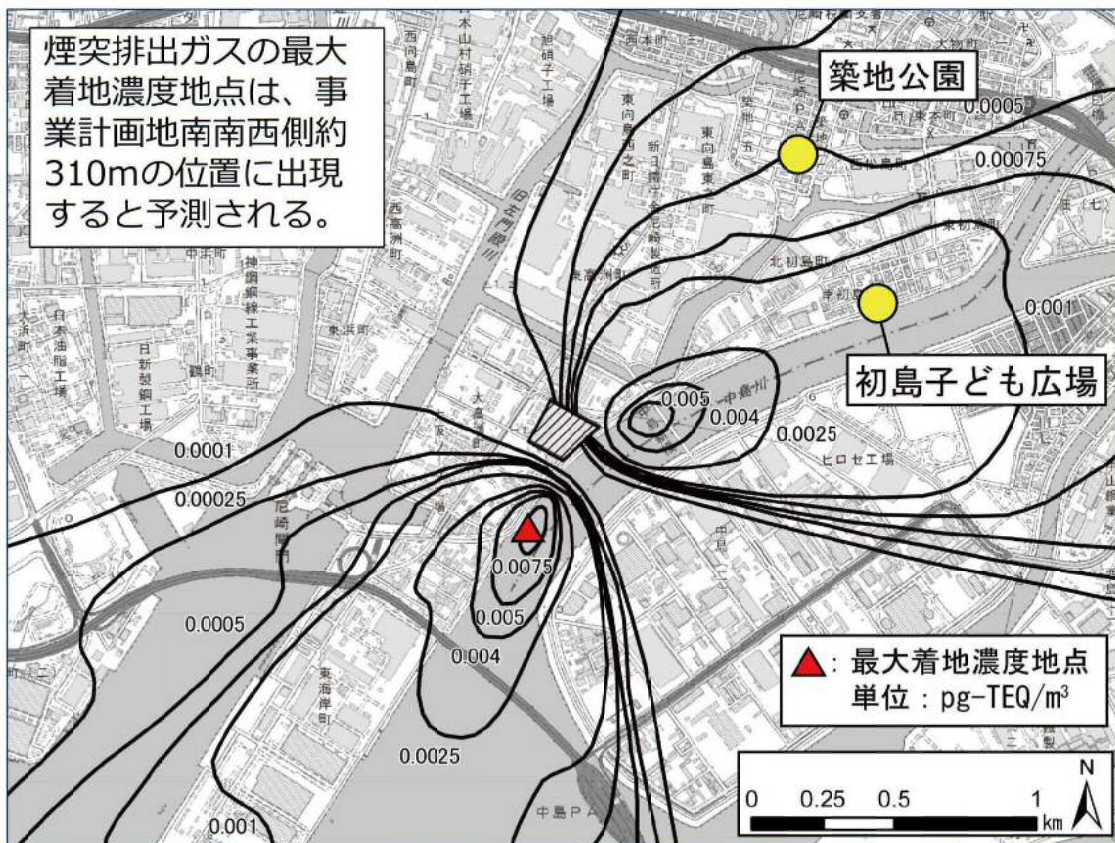
主な予測条件 : 気象条件(風向・風速・大気安定度)、発生源条件(煙突排出ガスの諸元・煙突の位置)

予測対象時期

施設の稼働が定常的となる時期



煙突排出ガスの影響予測のイメージ



【長期濃度予測結果 (寄与分) [ダイオキシン類の例]】

予測結果

[長期濃度予測結果 (最大着地濃度地点)]

項目 (単位)	年平均値			日平均値※	環境保全 目標値
	寄与濃度(A)	現況濃度(B)	予測結果 (A+B)		
二酸化窒素(ppm)	0.0015	0.016	0.018	0.035	0.04~ 0.06までの ゾーン内又は それ以下
二酸化硫黄(ppm)	0.00090	0.001	0.002	0.005	0.04以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.00085	0.022	0.023	0.054	0.10以下
塩化水素(ppm)	0.0022	0.001	0.003	/	0.02以下
ダイオキシン類(pg- TEQ/m ³)	0.0085	0.034	0.043		0.6以下
水銀(μg/m ³)	0.0026	0.004	0.007		0.04以下

※二酸化窒素は日平均値の年間98%値を、二酸化硫黄及び浮遊粒子状物質は日平均値の年間2%除外値を示す。

予測結果

[長期濃度予測結果 (現地調査地点)]

項目 (単位)	予測地点	年平均値			日平均値※	環境保全 目標値
		寄与濃度(A)	現況濃度(B)	予測結果 (A+B)		
二酸化窒素(ppm)	初島子ども広場	0.00028	0.015	0.015	0.031	0.04~ 0.06までの ゾーン内又 はそれ以下
	築地公園	0.000093	0.016	0.016	0.033	
二酸化硫黄(ppm)	初島子ども広場	0.00016	0.001	0.001	0.004	0.04以下
	築地公園	0.000054	0.001	0.001	0.004	
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	初島子ども広場	0.00016	0.017	0.017	0.044	0.10以下
	築地公園	0.000052	0.022	0.022	0.053	
塩化水素(ppm)	初島子ども広場	0.00041	0.001	0.001	/	0.02以下
	築地公園	0.00014	0.001	0.001		
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	初島子ども広場	0.0016	0.034	0.036		0.6以下
	築地公園	0.00052	0.028	0.029		
水銀(μg/m ³)	初島子ども広場	0.00047	0.004	0.004		0.04以下
	築地公園	0.00015	0.004	0.004		

※二酸化窒素は日平均値の年間98%値を、二酸化硫黄及び浮遊粒子状物質は日平均値の年間2%除外値を示す。

予測結果

[短期濃度]

項目 (単位)	予測結果 (バックグラウンド+寄与濃度)					環境保全 目標値
	一般的な 気象条件	上層 逆転層 発生時	接地逆転層 崩壊時	フュミ ゲーション 発生時	ダウンウォッ シュ・ダウンド ラフト発生時	
二酸化窒素 (ppm)	0.053	0.070	0.070	0.068	0.064	0.1 以下
二酸化硫黄 (ppm)	0.004	0.010	0.010	0.009	0.008	0.1 以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.078	0.084	0.084	0.083	0.081	0.20以下
塩化水素 (ppm)	0.003	0.017	0.018	0.016	0.012	0.02以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.032	0.088	0.090	0.081	0.065	0.6 以下
水銀 (μg/m ³)	0.007	0.024	0.024	0.022	0.017	0.04以下

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。
環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

環境保全措置(煙突排出ガス)

施設の稼働に伴う大気質の影響(存在・供用)を回避・低減するために環境保全措置の検討を行った。

排出ガスの処理、燃焼管理

高効率の排出ガス処理設備の採用及び焼却炉の適切な燃焼管理・監視を行い、排出ガス濃度の公害防止基準値を遵守する。

排出ガス濃度等の情報公開

排出ガス濃度等の計測により適正な施設稼働を確認するとともに、情報公開によって一般市民が本施設の運転状況を確認できるようにする。

予測の概要

工事用車両の走行及び施設供用時の施設関連車両(パッカー車等)の走行による、沿道の騒音・振動レベルを予測。

主な予測条件: 車両交通条件(時間別交通量、車種構成比、走行速度)・事業計画・工事計画

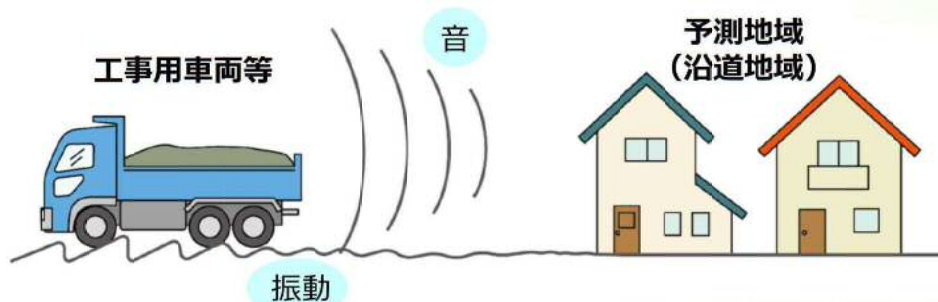
【予測に使用した車両台数】

区分		一日台数	
		大型車	小型車
工事用車両	平日	362	160
	休日		
施設関連車両	平日	946	210
	休日	494	4

予測対象時期

工事中: 工事用車両の運行による騒音・振動の影響が最大となる時期

供用時: 施設関連車両の運行による騒音・振動の影響が最大となる時期



道路交通騒音・振動の影響予測のイメージ

予測結果(騒音)

[騒音の予測結果]

[単位: dB]

時期	区分		予測地点	現況騒音レベル (L_{Aeq})	予測結果 (L_{Aeq})	環境保全 目標値	車両による 増加分
工事中	平日	昼間	県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	69	69	70	0 (1未満)
	休日			67	68	70	1
供用時	平日	昼間	県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	69	69	70	0 (1未満)
		夜間		64	64	65	0 (1未満)
	休日	昼間		67	67	70	0 (1未満)
		夜間		64	64	65	0 (1未満)

※時間区分は、昼間：6時から22時、夜間：22時から翌6時。

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

26

予測結果(振動)

[振動の予測結果]

[単位: dB]

時期	区分		予測地点	現況振動レベル (L_{10})	予測結果 (L_{10})	環境保全 目標値	車両による 増加分
工事中	平日	昼間	県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	44	46	70	2
	休日			42	42	70	0 (1未満)
供用時	平日	昼間	県道57号 尼崎港線 (中在家緑地入口)	47	49	70	2
		夜間		46	46	65	0 (1未満)
	休日	昼間		46	46	70	0 (1未満)
		夜間		45	45	65	0 (1未満)

※時間区分は、昼間：8時から19時、夜間：19時から翌8時。

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

27

環境保全措置(工事用車両)

工事用車両の走行に伴う騒音・振動の影響(工事中)を回避・低減するために環境保全措置の検討を行った。

運搬車両台数の低減

掘削に伴い発生する土砂は、可能な限り事業計画地内で再利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を低減する。

車両の維持管理

工事用車両は点検・整備に努めて良好な状態で使用し、過剰な騒音・振動の発生を防止する。

運転手の教育・指導

工事用車両の走行に当たっては、積載量及び走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行及び空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を実施する。

環境保全措置(施設関連車両)

施設関連車両の走行に伴う騒音・振動の影響(供用)を回避・低減するために環境保全措置の検討を行った。

車両の維持管理

施設関連車両は点検・整備に努めて良好な状態で使用し、過剰な騒音・振動の発生を防止する。

運転手の教育・指導

施設関連車両の走行に当たっては、積載量及び走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行及び空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を実施する。

予測の概要

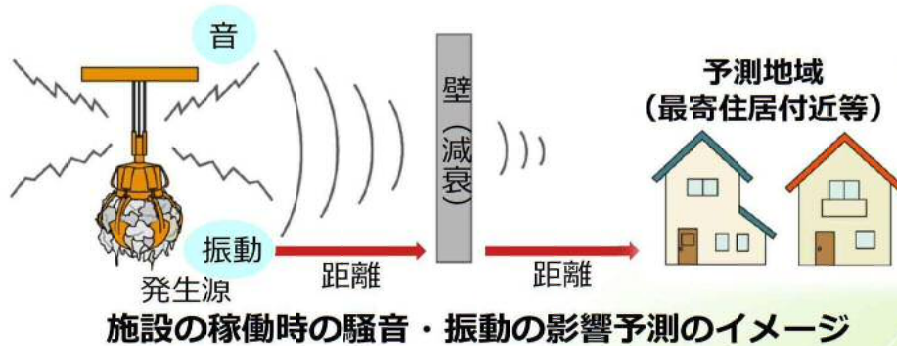
施設稼働に伴う騒音・振動を予測。

主な予測条件

施設稼働：事業計画（発生源のパワーレベル・騒音レベル・振動レベル等）

予測対象時期

騒音・振動（施設稼働）：施設の稼働が見込まれる時期



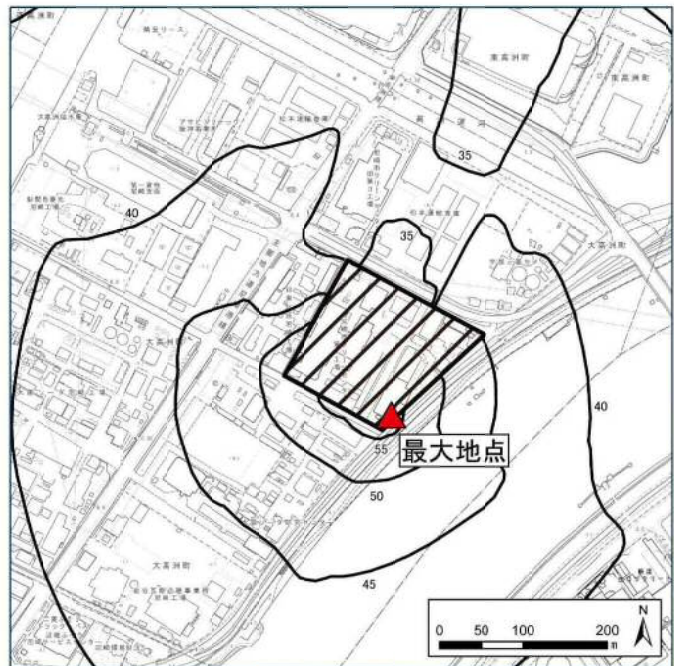
30

予測結果

[施設の稼働]

(単位：dB)

最大地点	予測結果 (L _{A5})	環境保全目標値 (L _{A5})
南東側敷地境界	58	60



供用時の騒音予測地点と最大地点位置

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

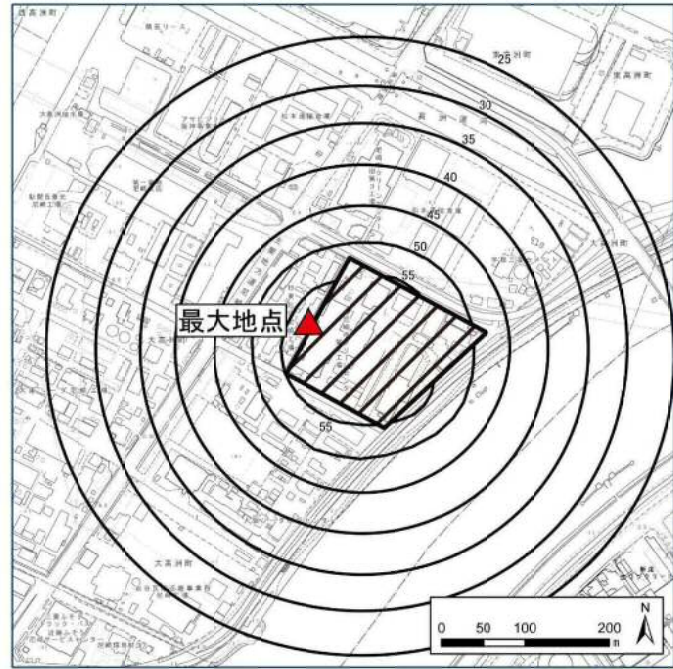
31

予測結果

[施設の稼働]

(単位: dB)

最大地点	予測結果 (L ₁₀)	環境保全目標値 (L ₁₀)
西側敷地境界	59	60



供用時の振動予測地点と最大地点位置

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。
 環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

環境保全措置(施設の稼働)

施設の稼働に伴う騒音・振動の影響(供用)を回避・低減するために環境保全措置の検討を行った。

騒音発生機器の配慮

低騒音型の設備機器を採用し、必要に応じて排風機・ブロワ等への消音器取付等を検討する。また、特に大きな音の発生する設備機器は、必要に応じて、防音構造の室内に設置する。

振動発生機器の配慮

低振動型の設備機器を採用し、また、特に大きな振動源となる設備機器は、必要に応じて独立基礎又は防振装置を設置する。

設備機器の維持管理

定期的な設備機器等の点検及び異常が確認された機器類の修理・交換等、適切な維持管理を行う。

予測の概要

煙突排ガス：施設供用時の施設の稼働に伴う悪臭の1時間値を予測。

主な予測条件：気象条件（風向・風速・大気安定度）・
発生源条件（煙突排ガス出口の諸元・位置、焼却施休止時の排出口の諸元）
施設の規模（現有施設・新施設）

予測対象時期

煙突排出ガスに含まれる悪臭：施設が定常的な稼働となる時期

施設休止時の排出口からの悪臭：焼却施設の休炉時

施設から漏洩する悪臭：施設が定常的な稼働となる時期

予測結果

煙突排出ガスに伴う悪臭については、最大濃度地点において臭気指数は10未満であり、この値は本施設の環境保全目標値である臭気強度2.5（環境保全目標値相当）以下に該当すると予測される。施設休炉時の排出口からの悪臭も同様と予測される。

また、施設から漏洩する悪臭は新施設においても敷地境界において現有施設と同程度の特定悪臭物質及び臭気濃度となると予測される。

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

34

環境保全措置（施設の稼働）

施設の稼働に伴う悪臭の影響（供用）を回避・低減するために環境保全措置の検討を行った。

臭気の高温分解

施設稼働時には、ごみピット内の空気を燃焼用空気として引き込み、焼却炉内で臭気の高温分解を行うことで、悪臭の低減を図る。

悪臭漏えいの防止

施設内は負圧に保ち、ごみピットからの臭気の漏えいを防ぐ。また、リサイクル施設及びし尿処理施設においては、密閉化によって建屋内からの臭気の漏えいを防ぐ。

脱臭装置の設置

施設休止時には、脱臭装置による脱臭を行い、悪臭の低減を図る。

35

環境保全措置 (施設の解体・建築に伴う地下水質の影響)

施設の解体・建築に伴う地下水質の影響を回避・低減するために環境保全措置の検討を行った。

鋼矢板等の設置による遮水又は地下水位を管理しながら掘削

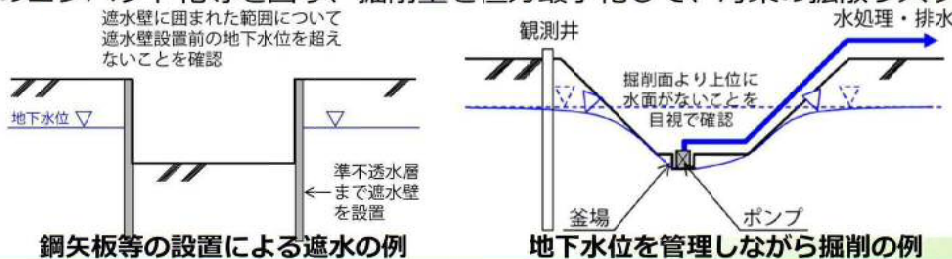
掘削の際は、土壌汚染対策法ガイドラインに準拠し、鋼矢板その他の遮水性を有する構造物を準不透水層まで設置、又は掘削範囲内に設けた釜場からの排水によって地下水位を低下させて観測井戸による地下水位の管理を行いながら帯水層へ接しない状況で掘削を進める。

ケーシング杭等の併用

準不透水層を貫通するような杭工事の際は、土壌汚染対策法ガイドラインに準拠し、ケーシングの併用等を実施する。

掘削量の最小化による汚染の拡散リスクの低減

地下構造物のコンパクト化等を図り、掘削量を極力最小化して、汚染の拡散リスクの低減を図る。



評価の結果 (施設の稼働に伴う地下水質の影響)

以上の環境保全措置により、施設の解体・建築に伴う地下水質の影響については、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られていると評価した。

36

環境保全措置 (施設の解体・建築に伴う土壌汚染の影響)

施設の解体・建築に伴う土壌汚染の影響を回避・低減するために環境保全措置の検討を行った。

鋼矢板等の設置による遮水又は地下水位を管理しながら掘削

掘削の際は、土壌汚染対策法ガイドラインに準拠し、鋼矢板その他の遮水性を有する構造物を準不透水層まで設置、又は掘削範囲内に設けた釜場からの排水によって地下水位を低下させて観測井戸による地下水位の管理を行いながら帯水層へ接しない状況で掘削を進める。

掘削量の最小化による汚染の拡散リスクの低減

地下構造物のコンパクト化等を図り、掘削量を極力最小化し、汚染の拡散リスクの低減を図る。

掘削土の飛散防止・流出防止

掘削土は、可能な限り埋戻土等で場内利用を行い、仮置きの際は土壌汚染対策法ガイドラインに準拠し、飛散防止・流出防止等の対策を実施する。

ケーシング杭等の併用

準不透水層を貫通するような杭工事の際は、土壌汚染対策法ガイドラインに準拠し、ケーシングの併用等を実施する。

土壌(粉じん)の飛散防止

敷地境界には防塵ネット又は仮囲いを設置し、敷地外への飛散防止を図る。

既存表土の被覆

構内道路下はアスファルト舗装、緑地下は表層50cmを清浄土による覆土を実施する。

評価の結果 (施設の稼働に伴う土壌汚染の影響)

以上の環境保全措置により、施設の解体・建築に伴う土壌汚染の影響については、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られていると評価した。

37